関東あだたら大玉の会通信

コロナにも負けない絆

武田信也（玉井字山口在住）

名倉山のテッペンから見る朝焼けの空、安達太良山の夕焼け空を桜の花越しに見る。

おらが村の小さな幸せ、至福の時だ。小鳥が遊び、草木も芽吹き、孫たちの歓喜の声を待ち望んだ今年のゴールデンウィークはコロナ緊急事態宣言で自粛の暗黒週間となりました。

どこまで続くのか？

人生の中での楽しみでもある、組の仲間と2、3年ごとの旅行（昨年は姫路城＆金閣寺）、高校の仲間と恒例となった県民の森でのキャンプファイヤー。趣味の登山（北岳や穂高の予定も）やゴルフ。同期の古希の祝い準備、全て3密で我慢、ガマンの試練の我慢比べ。こりゃータマランね。

こんな状況でも、田植え、野菜作りはコロナに負けず、時を刻んで平穏を装う。グリーンの絨毯を見に来てくださいと声を大にして自慢したい。叶わぬ願いか？

これでもかと、この10年、災害が多発していますね。3・11、原発事故、大洪水等、自然の美しさと裏腹に自然の脅威に翻弄されてます。プラスしてウイルス感染を今年の元旦に誰が予想出来ましたか。WHOは知っていたか。

東京オリンピック、パラリンピックの延期、そして我が会の25周年記念式典も延期。中止ではないので望みは大ですね。収束宣言が出されましたら、記念実行委員会も腰を上げて再告知の運びになるでしょう。入会同期の渡辺敏雄、橋本富夫、鈴木千江子、遠藤のり子たちと会が準備してくれたバスに乗り喜んで駆け付けます。故郷と関東を結ぶ虹の架け橋を渡り、笑い声を届けに参ります。

それまで、健康第一で会の仲間と笑顔で会えることを願ってやみません。負けないぞ！

～槍ヶ岳にて（写真右が武田さん）～

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS
世界を変えるための17の目標

Vol. 6

おおたま × SDGs（エスディージーズ）

SDGs（持続可能な開発目標）の達成に向けて、一人ひとりが身近なところでできる取組みなどを連載で紹介します。

ゴール１１　住み続けられるまちづくりを

この目標の一つとして、災害に強く、災害があっても早く回復できる「強靭で持続可能なまちづくり」が掲げられています。

近年、私たちの近くでも地震や大雨による河川の氾濫など大規模な自然災害が多く発生しています。いつどこで発生するか分からない災害に対し、行政による「公助」だけではなく、一人ひとりが防災意識を高める「自助」、近隣や地域で連帯してお互いに助け合う「共助」が大切です。

村でも行政だけではなく各地域の消防団員が、本業の仕事を持ちながら火災や災害への対応にあたっていただいており、村民の安心・安全を守るため活動しています。

家庭や地域の中でも、非常用持ち出し袋を準備しておく、避難場所や経路を確認しておく、防災訓練に参加するなど、日ごろから災害に備えておくことが「住み続けられるまちづくり」につながります。

ゴール１２　つくる責任 つかう責任

食品の賞味期限切れや食べ残しなど、また食べられるのに捨てられてしまう「食品ロス」という言葉を聞いたことはありませんか。日本の食品ロスは年間６百万トン以上にも及び、国民全員が毎日おにぎり２つ分の食べ物を捨てている計算になるそうです。家庭でも食品を食べきれないほど購入しない、消費期限をよく見て調理する、冷蔵庫の中身を適切に管理するなど、少しのことで食べ物もお金も無駄にしなくて済むようになります。

また今年７月からは、全国すべての小売店でレジ袋が有料化される予定です。これは地球環境への影響が大きい「プラスチックごみ」を減らすためです。最近ではコンビニやコーヒーショップなどでもプラスチックではない紙のストローを目にすることが増えてきました。普段からマイバッグやマイボトルを持ち歩いたり、環境にやさしい製品を利用することで、プラスチックごみを少しでも減らすことができます。

世界を変えるために、家庭や日常生活の中で取り組めることが多くあります。